

榎本保郎先生の『旧約聖書 一日一章』と共に読む

《 創世記 2章 》

◆ 読んで・聴いて 思い巡らそう

- 心に届いたみ言葉
- ふと、気が付いたこと
- 心の扉をノックされたこと
- 安心したこと
- 嬉しくなったこと、悲しくなったこと
- 困ったこと・宿題
- 自分に語られていること
- 誰かに伝えてあげたいこと
- 私たちの教会に示されたこと
- この時代への呼びかけ
- 考えさせられたこと
- 「悔い改め」を迫られたこと
- イエスさまのお姿が見えた来た箇所

【 私のためのメモ 】 ひみつ・秘密・ヒミツ

◆ 聖書味読 比べて読む 翻訳の違い

創世記 2章3節

- 70人 神は第七日を祝福し、それを聖別した。神はその日に、着手したすべての仕事から（解放されて）休んだからである。
- 岩波 神は第七日を祝福し、これを聖〔なる日〕と定めた。その日、神は自ら創造し果たしたそのすべての業を離れ、安息をとったからである。
- 関根 神は第七日の日を祝し、それを聖きよしとされた。何故なら、その日に神は創造のすべての業を終わって休まれたからである。
- 共同 神は第七の日を祝福し、これを聖別された。その日、神はすべての創造の業を終えて休まれたからである。
- 改訂3 神は第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。
- LB この日を祝福して、聖なる日と決めました。この日に天地創造の働きが完了したからです。

創世記 2章7節

- 新共 主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。
- 2017 神である主は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。
- フラ 神である主は土の塵で人を形づくり、命の息をその鼻に吹き入れられた。そこで人は生きる者となった。
- 70人 神はその塵から人間を形づくり、命（ゾーエー）の息をその顔に吹きかけた。すると人は生ける霊になった。
- 現代 主である神は、土のちりで人を形造り、その中に命の霊を入

れられた。それで人は生きた人格となった。

- 岩波 神ヤハウエは大地の塵をもって人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き入れた。そこで人は生けるものとなった。
- 関根 ヤハヴェ神は土地の土くれから人を造り、彼の鼻に生命の息を吹き込まれた。そこで人は生きた者となった。
- 共同 神である主は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き込まれた。人はこうして生きる者となった。

創世記 2章17節

- 共同 ただ、善悪の知識の木からは、取って食べてはいけない。取って食べると必ず死ぬことになる。」
- 2017 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」
- フラ しかし、善悪を知る木の実は食べてはならない。それを食べると、必ず死ぬ」。
- 岩波 善悪を知る木、これから〔実を〕取って食べてはならない。これから取って食べる日、あなたは必ずや死ぬであろう。」
- 関根 しかし善悪の知識の樹から食べる時は、君は死なねばならぬのだ」。
- 70人 しかし、善悪を知る木からは食べてはならない。それを食べた日には、まちがいなく死ぬ。」
- 現代 しかし、善悪を知る木からは食べてはならない。それを食べた日には、まちがいなく死ぬ。」
- LB だが『善悪を判断する力のつく木』の実だけは絶対にいけない。それを食べると、正しいこととまちがったこと、よいことと悪いことの区別について、自分勝手な判断を下すようになるからだ。そんなことになったら、必ず死ぬ。」

◆ **み言葉を生き み言葉を伝えるために**

(ア) 聖書の中で最初に出てくる「安息」がここにある 「安息」は決して小さくないテーマ。「安息日」ではなく「安息」で旧約を調べるとレビ記以外では思いのほか「安息」が出てくる箇所は限られている。

出エジプト記 33:14、歴代下 36:21、イザヤ書 28:12、66:1 以外にはない。イザヤ書 66 章を読むだけでも意義深い。

◆イザ 66:1 主はこう言われる。天は私の王座、地はわが足台。あなたたちはどこに私のために神殿を建てうるか。何が私の安息の場となりうるか。

(イ) 1章では「神」が主語であったのが2章4節以下では「主なる神」に変わる 天地創造が語られて来た創世記。第二の創造の出来事が始まる。2:4 ~ 3:24 では書き手が変わっている。最も大切な特徴の一つは、神の固有名詞である「主」「ヤハウェ」（出エジプト 3:14 参照）が用いられること。

(ウ) 7節 主は「いのちの息」を吹き込まれる 想像力をもって「いのちの息」を考えよう。今橋朗は「人は神によってこそ生かされる」ことの別表現だという。新約において「息」はどこに見いだせるだろう。

(エ) 9節 「園の中央」にあるのは、何という名前の木だろう
主なる神は「人を…そこに置かれた」

(オ) 15節 主なる神がエデンの園に人を連れて来て何をなさいと言われたか

(カ) 18節 主なる神が「彼に合う助ける者を造ろう。」他の翻訳で後半の「彼に合う助ける者を造ろう」はどのようになっているか。本質的なメッセージは何だろう？岩波訳の欄外注は字義通りには「彼の前にある存在として」とする。

- 共同 「彼にふさわしい助け手を造ろう。」
- フラ 「彼にふさわしい助け手を造ろう」。
- 月本 「彼につれあう助けを造ろう」。
- 岩波 「彼に向き合うような助け手を造ってあげよう」。
- 2017 「わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」
- 70人訳 「さあ、われわれは彼のために彼と向き合う助け手（ギリシア語：ポエートス）をつくろう。」
- LB 「彼を助ける者がいなくては。」
- NKJV I will make him a helper comparable to him.”
- TEV I will make a suitable companion to help him.”

【今橋朗】「聖書の間観によれば、ひとりぼっちの人間というのは、人間ではない」。

【榊原康夫】「ふさわしい」とは「目の前にいる者のように」という意味で、一対一、ひと組になる助けを表す。

【遠藤嘉信】「助け手」といって、サポートにまわる側が、その対象者に従属するというわけではない。神が私たちの助け手、というような意味においても用いられる言葉。対等なパートナーを必要と考えられた、ということ。そのような制作者としての神の意思と人への特訓の配慮の思いがここに明らかにされている。

(キ) 20節 「人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。」 詩編など詩編 8:6-9 参照。

- 詩編 8:6 神に僅かに劣るものとして人を造り／なお、栄光と

威光を冠としていただかせ 7 御手によって造られたものをすべて治めるように／その足もとに置かれました。8 羊も牛も、野の獣も 9 空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。

(ク) 21節 主なる神は人を「深い眠りに落とされた(「下した」という訳が多い)。」 創世記 15:12、サムエル上 26:12 など参照。

◆岩波欄外注には「人間の自己意識が消滅し、神の意思があらわされる状態」とある。

◆月本昭男は「人間の自然状態の延長線上に起こったのではない。自らが一旦死んで生まれかわることと不可分」とまで指摘し、死を想起させる。

●70人訳 「そこで神はアダムを脱魂状態(エクスタシス)にして眠らせた」

(ケ) 21節後半 岩波「彼が寝込むと、神ヤハウエは彼の肋骨を一本取り、代わりに〔そこを〕肉でふさいだ。」 榊原康夫は「これは、あらゆる点で男女平等を叫ぶ現代人の理念とは、まったく違った世界。なるほど、男も女も神のかたちに造られた点で、人格の尊厳は平等です。しかし、その働きと体力において、創世記によれば、男女は悪平等の一对ではないのです。それぞれが別々の特性と役割とをになっています。…」という。

(コ) 24節「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」

●岩波「このゆえに、人はその父と母とを見棄てて、妻と結び合う。彼らは一つの体となる」

●70人訳「人はこのためにその父と母とを捨て、その妻と一体となり、二人はひとつの肉となるであろう」

以上